

18日 木曜

マルコ

7:1 さて、パリサイ人たちと、エルサレムから来た何人かの律法学者たちが、イエスのもとに集まった。

7:2 彼らは、イエスの弟子のうちのある者たちが、汚れた手で、すなわち、洗っていない手でパンを食べているのを見た。

7:3 パリサイ人をはじめユダヤ人はみな、昔の人たちの言い伝えを堅く守って、手をよく洗わずに食事をすることはなく、

7:4 市場から戻ったときは、からだをきよめてからでないと食べることをしなかった。ほかに、杯、水差し、銅器や寝台を洗いきよめることなど、受け継いで堅く守っていることが、たくさんあったのである。

7:5 パリサイ人たちと律法学者たちはイエスに尋ねた。「なぜ、あなたの弟子たちは、昔の人たちの言い伝えによって歩まず、汚れた手でパンを食べるのですか。」

7:6 イエスは彼らに言われた。「イザヤは、あなたがた偽善者について見事に預言し、こう書いています。『この民は口先でわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。』」

7:7 彼らがわたしを礼拝しても、むなししい人間の命令を、教えとして教えるのだから。」

7:8 あなたがたは神の戒めを捨てて、人間の言い伝えを堅く守っているのです。」

7:9 またイエスは言われた。「あなたがたは、自分たちの言い伝えを保つために、見事に神の戒めをないがしろにしています。」

7:10 モーセは、『あなたの父と母を敬え』、また『父や母をのしる者は、必ず殺されなければならぬ』と言いました。



7:11 それなのに、あなたがたは、『もし人が、父または母に向かって、私からあなたに差し上げるはずの物は、コルバン（すなわち、ささげ物）です、と言うなら——』と言って、

7:12 その人が、父または母のために、何もしないようにさせています。

7:13 このようにしてあなたがたは、自分たちに伝えられた言い伝えによって、神のこゝとばを無にしています。そして、これと同じようなことを、たくさん行っているのです。」

律法学者やパリサイ人は自分たちが律法を守っているという自負心があったので、イエス様がその通りではないことを非難しました。しかし、イエス様は律法の本質を求めておられました。第一は心です。心を主に向け、きよめられなければ何の意味もありません。律法を守っているから大丈夫という考えでは、自分の心の問題に気づくことはないのです。

第二は本物の戒めです。「コルバン（すなわち、ささげもの）になっているか」という言い訳を用意して、律法を守っているかのように見せかけても、律法の基本であるモーセの十戒をないがしろにするなら、本来転倒なのです。イエス様は私たちの心をぐらんにします。また實際生活をぐらんにします。自分では間違いない生活をしているようでも、自分の足りなさを認めつつ謙遜に生き、主のみこころを行いましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

